

「動画」で 下妻市をPRしています

市では、インターネットやスマートフォンの普及などを背景に利用が飛躍的に拡大している「動画」での情報発信について、市制施行60周年を機に、下妻市PRビデオ「下妻観光物語」と、イベントや観光、特産品を紹介する“短編動画集”を制作しました。

下妻市と交流のある自治体や団体、関係企業などにDVDを配布し、下妻市の魅力をアピールするとともに、市のホームページでも「下妻観光物語・しもつま動画チャンネル」のコーナーを新設し、公開しています。

また、下妻市PRビデオ「下妻観光物語」は、市立図書館で「DVD版」「ブルーレイ版」の2種類を貸し出していますので、ぜひご覧ください。

市では、シティブロモーションを推進する観点から、広報紙をはじめ、ホームページやツイッターなど、さまざまな広報媒体を通じて、情報発信力を高めていきます。

●下妻市PRビデオ「下妻観光物語」(19分32秒)



下妻市イメージキャラクターの「シモンちゃん」が案内役になり、「花のまち」をアピールしながら、「レジャースポット」「特産品」「イベント・おまつり」など、下妻の魅力をたっぷり紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

●イベント、観光、特産品を紹介する“短編動画集”(2~3分/本)

- ①下妻の桜②多賀谷時代まつり③鬼怒フラワーライン④小貝川フワフワフェスティバル⑤砂沼サンビーチ⑥下妻まつり⑦しもつま砂沼フェスティバル⑧ピアスパークしもつま⑨筑波サーキット⑩下妻の節分祭⑪下妻の梨⑫タバンカ祭⑬ふるさと博物館⑭下妻市制施行60周年記念式典

●下妻市ホームページから「PR動画」を見る場合

下妻市ホームページ (<http://www.city.shimotsuma.lg.jp>)へアクセスし、トップページ内の「下妻観光物語・しもつま動画チャンネル」のバナーを、クリックしてください!!

下妻観光物語 しもつま動画チャンネル



お問い合わせ 秘書課 内線1212

「広報しもつま」が700号を迎えました。第1号の発行から60年。人間でいえば還暦のお祝いになります。600冊を見返すと、その時代の時代を感じる事ができます。広報の記録は、これからも大切に保存され、次世代に受け継がれていきます。

この60年の間に、紙面も大きく変わりました。新聞の大きさから始まり、タブロイド判、B5版へと変わりながら、昭和47年4月10日発行の第192号からは、現在のA4版になりました。さらに、

編集後記

●「広報しもつま」第700号の足跡

募集 します



「広報しもつま」では、市民の皆さんの声を行政に反映し、より親しみを持っていただけるよう市民参加のページを設けています。

「ほっとレポ・ライン “市民の声”」のコーナーでは、市民の皆さんからの声や情報などを提供していただき、「広報しもつま」を愛読していただいている方々をはじめ、広く市内外にアピールしていきます。

市民の皆さんからのホットで、心温まる情報や明るい話題などをお待ちしていますので、お気軽にお寄せください。

- 【対象者】 市内にお住まいの方（自薦他薦は問いません）
- 【原稿等】 おおむね400~800字以内（様式は問いません）
- 【編集】 原稿や情報などをお寄せいただいた方と広報担当で調整します。なお、営利目的の広告や誇大、虚偽、公共性を損なう原稿などはご遠慮ください。
- 【受付】 随時。ただし、掲載を希望する月がある場合は、その前月の15日まで
- 【提出】 市役所秘書課へ直接もしくは郵便、ファクシミリ、Eメールで提出ください。

問い合わせ・提出先 秘書課 ☎内線1212
FAX 43-1960/Ex-ℓ hisho@city.shimotsuma.lg.jp

盛大な見送りを受ける 訪中バレーボール選手団

第300号

人口: 3万791人 / 世帯数: 7,571世帯 / 一般会計: 41億8,800万円 (当初)

第300号の表紙では、茨城スポーツ少年友好訪中団のバレーボール代表選手団に選ばれた下妻中学校、古河第一中学校、古河第二中学校の選手15名が、成田空港へ向かう直前、市役所玄関前で加藤俊介市長をはじめ、バレーボール協会関係者、下妻中学校の生徒とその保護者、市職員などから盛大な見送りを受けた様子が掲載されました。また、「話題」のコーナーには、上妻小学校・上妻幼稚園の体育館が完成した記念に、園児や児童約50人が「おはやし」を披露したことが掲載されていました。昭和50年代は、市内小学校の校舎や体育館が木造から鉄筋コンクリートの校舎、鉄骨造りの体育館に、順次建て替えられていきました。近年、耐震化や大規模改修の工事が計画的に実施されてきた市内小学校の校舎や体育館は、この時期に建設されたものです。



筑波ハイテクフォーラムパーク 計画の概要

第400号

人口: 3万3,303人 / 世帯数: 8,735世帯 / 一般会計: 71億3,000万円 (当初)

この号で紹介したのが「筑波ハイテクフォーラムパーク計画の概要」。下妻市、つくば市、明野町(現・筑西市)の3市町にまたがる317ヘクタールの敷地に、「職・住・遊・学」の四つ機能を持つ国内初めての複合都市づくりを目指す計画で、民間資本で事業化が進められていました。財政基盤の拡大や交通体系、道路網の整備、地域のイメージアップなどの開発効果が期待され、県や3市町が支援していく方針を立てました。昭和末期から平成初期頃の日本の好景気に支えられたこの計画は、バブル経済の崩壊などから事業の具体化は果たされませんでした。そのほか掲載された情報の中で興味深かったのが、9月2・3日に砂沼球場で開催予定の「砂沼フレンドリーフェスティバル」のイベント情報です。当時、人気急上昇のアイドル「荻野目洋子コンサート」や、誰でも参加できる「ウルトラクイズ」の上位5人に「グアム旅行」がプレゼントされるなど、内容が盛りだくさん。賞品が豪華で景気の良さを感じさせるものでした。

平成元年8月10日発行



明るく住みよいまちづくりを目指して 市長と自治区長との“対話集会”開かれる

第500号

人口: 3万6,866人 / 世帯数: 11,123世帯 / 一般会計: 118億3,000万円 (当初)

第500号では、市民参加と広聴活動の一環として、市内の自治区長が一堂に会して市長と直接対話する「市長と自治区長との対話集会」が報告されました。各地区から出された代表的な意見や要望などに対して、市長の回答がつけられた。掲載内容となつていますが、道路の改良や側溝整備、ごみ問題など市民生活に密着した要望が数多く重なる中で、「第6回フェスティバルが、地域でマンネリ化していることから、スポーツにこだわらず、地区の事情に合ったものを実施したい」との提案があり、地域での課題を地域自身が解決しようとする市民協働の取り組みがうかがえる意見もありました。

平成9年12月10日発行



第2期小倉市政がスタート

第600号

【平成18年1月1日、千代川村と合併】
人口: 4万6,335人 / 世帯数: 14,839世帯 / 一般会計: 142億3,900万円 (合併後6月補正)

第600号は、平成18年1月1日、千代川村と合併して新下妻市が誕生した3月後の発行となり、平成18年3月に無投票再選を果たした小倉敏雄市長の「2期目スタート」となる初登壇の記事が一面となりました。また、合併後の新下妻市として発行した第597号(平成18年1月10日発行)では、「広報よかわ」で連載していた村民紹介コーナー「さわやかリレー」を継承し、「13歳までのかわいい盛りのお子さんを紹介するコーナー」を復活させました。この二つの連載コーナーは、現在も続いており、「広報しもつま」に掲載されることで、市民の皆さんに親しまれています。

平成18年4月10日発行

